

# 大和田囲碁タイムズ

大和田囲碁同好会は、大和田市民センターを拠点として伝統文化である囲碁の啓蒙と普及に努める親睦団体です。囲碁を学びたい方のご参加も歓迎しています。

2023年5月 NO.4

発行者: 大和田囲碁同好会  
発行: 毎月  
編集: 成田 滋  
shigerunarita@gmail.com  
090-8574-8860



八王子囲碁連盟 <https://hachigoren.com>

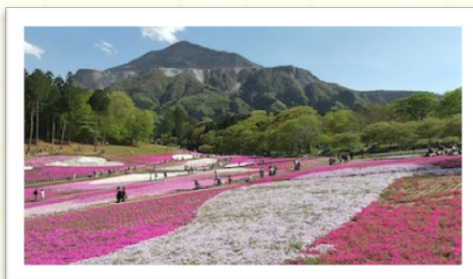
## 囲碁との関わり

大和田囲碁同好会 村田義彦

囲碁は、中学生の時に初めて触れた。時折、父は友人を家に呼んで囲碁をしていた。家は八王子の丘の上にあった。近くには清水の湧き出る沢もあって、沢ガニが居るような昭和の時代であった。碁石の音を聞いて近寄った私は、これはどのようなゲームなのか父に聞いた。「ジを取るゲームだ」と言った。その時には、石を並べて字でも描くのかと思った記憶がある。将棋のように駒を取ることに馴染んでいたが、囲碁はルールがわかった程度であった。

その後、就職して秩父にある会社の寮に入った。そこは、山深く、周りには繁華街や商店は無い。武甲山の麓で、山々がきれいに見えていた。春は新緑、秋は紅葉が美しく、寮の周りは、野生動物も出てくるほどの自然豊かな場所であった。若者が多く在籍していたが、仕事が終わると楽しみは少なかった。会社も考えたのだろう、寮生のためにテニスコートなどの運動施設や娯楽設備も完備されていた。

寮では、先輩から囲碁をやらなかと誘われ、少しやって見たが、テニスサークルで運動をする方が楽しくなり、ほとんどテニスをする日々を送るようになった。たばこを吸いながら一日、囲碁をするサークルは年寄りの不健康者の集団に思えた。会社囲碁対抗戦などを行っていたようであった。私は若者が集まって太陽の光の下で汗を流す健康的な生活にはまって行った。テニスサークルは女性も多く、明るく楽しい雰囲気であった。冬はその仲間ですキーに行ったりした。結局、そのときに囲碁に誘われた同年代の寮生は皆、テニスサークルに入って、囲碁はやらなかった。考えれば健全な時代であった。それ以来、40年間以上、テニスなどの運動をすることが趣味で楽しんできた。囲碁はやらなかった。



武甲山

なお、私を囲碁に誘った先輩はそのまま一人で今でも囲碁を続けていると聞いている。

しかし、転機はいずれ訪れることはうすうす感じていた。その昔、40年前のことである。正月明けで仕事に出た父は63歳で、突然心臓病で帰らぬ人となった。寒い夜のことであった。連絡を受けた私は身重の妻を連れて八王子に急いだことを覚えている。父は、仕事を止めてから友人達と囲碁をして余生を過ごそうと厚い碁盤を買い込んでいた。碁目の薄い色の美しい碁盤であった。碁盤は使われることが無く、実家に残された。無念であったと思う。形見分けとなり、兄弟で碁に関係したことがあるのは、私だけであったので、私が碁盤を引き取ることになった。それ以来、碁盤は私と共に引越をするようになった。その間、私は囲碁をやらなかったため、碁盤は一度も使われたことが無かった。しかし、テニスなどの運動はいずれ身体の限界が来て、出来なくなるだろうと若いときから、この盤で身体が動かなくなったら囲碁をやるうと考えていた。退職したら囲碁の練習をして老後を楽しむ計画を考えてはいた。

定年で仕事を辞めて埼玉県から八王子に戻り、60代で囲碁の練習を始めた。しかし、家に置いてある父の思いの残る碁盤で囲碁をする機会は訪れなかった。人が家を訪れて碁盤で囲碁をする時代が終わってしまった。そして

厚い碁盤はしばらくしたら自分で持ち運ぶと腰でも痛めそうな気がした。重厚長大の時代は終わり、ネットで囲碁をする時代になった。さらに、コロナ禍となり、人を呼んで家で囲碁をするなど出来ない時期が続いた。昨年末、大和田町のマンションに引っ越した時、住んでいた一戸建ての家には今までの家族の歴史を担ってきた品々が何十年分も溜まっていて、全ての家財をマンションに納め切れないことがわかった。ほとんどの物を捨てなければ居場所すらなくなる危機に直面して、形見の碁盤を処分することにせ

ざるを得なかった。無償で使ってもらえる所を探したところ、老人ホームなどで使えるとの話しでほしい人が居て譲渡することになった。結局、父の時代からこの碁盤は40数年間、一度も使用されることが無く、全く残念だった。

現在、71歳を過ぎたところで、大和田囲碁同好会に参加させて頂いたので、しばらくは囲碁を楽しんでいけるものと期待している。囲碁以外にも、今後のため趣味を増やしてきたので、継続してきたテニス、登山、ハイキング、70歳から始めたピアノなどの他の活動については、また機会があればお話出来ればと思っている。

## 絵師 葛飾北斎の逸話

大和田囲碁同好会 原田朋栄

囲碁仲間で、ひよんな事から、田口勇氏（奥様の遺品）から画集を戴き、小生の絵の興味をより掻き出させて戴く事になりました。北斎は、6歳から絵を描くことが好きで亡くなる90（1849年江戸にて没）歳まで、描き続けました。その偉業は後世の知るところですが、若い時は謎に包まれており幾重も画号（30以上）を変え、引っ越したり、淋派等・法華宗の俵屋宗達・尾形光琳へ弟子入りし、画風をも変え、思想は法華宗（日蓮）の信奉者でもありました。

ところで、私は独学で絵を描くことが好きだけで、退職後は暇に任せ、気の向くまま水彩画を始めた訳です。そんな訳で、興味に任せ、描いた中から、この度3枚ほど葛飾北斎の画集から、自分流に描いてみましたのでご笑覧ください。北斎は、70歳を過ぎてから富獄三十六景を描き、評判が良く売れたので10景を追加、四十六景となります。その後、絵本の編纂にも着手多くの編纂を手掛け、生涯かけて、富獄100景となります。

その中から 1.「江戸日本橋」（日本橋は1603年に家康の時代に架けられ、11代将軍（家



斉：1787～1837年）の時代に、老中松平定信の元、文芸の成熟期でした、特に江戸で最もにぎやかな場所）行き交う人々を描き、遠くに江戸城の2

櫓（やぐら）を描き、平和な日本の代表である富士山を望む事で、江戸の賑わいを醸（かも）し出しています。この頃は、庶民的富士信仰が広まっていたので良く売れました。

### 2.「本所立川」

（ほんじょたてかわ）大川（隅田川）に注ぐ立川（たてかわ）をはさんで、右に本所相生町、左に惣録屋敷（千歳町）、木材置き場があり、北斎の生まれ育った所で、現在の東京スカイツリーの近くから見た富士です。



### 3.「神奈川沖浪裏」(天保1～3年：1830～32年頃)

富獄三十六景の屈指の名作であり、フランスの音楽家ドビュッシーは、この絵にヒントを得て交響詩「海」を作曲し、更に、楽譜の表紙をこの大波でデザインした為、広く世界に富士山を知られることとなります。1.2.3 絵図を下記に載せてみました。機会あれば、続編をお楽しみください。

\*参考書（平凡社：世界名画集。博雅堂：北斎の富士。第三文明社：法華宗の芸術、高橋伸城）から引用



#### ◎大和田囲碁同好会--定例会へどうぞ。

日時 毎週日曜日午後1時～5時  
場所 大和田市民センター 参加者 会員及び市民  
参加費 年間 3,000円  
連絡先 成田 滋 090-8574-8860

#### ◎大和田囲碁同好会--囲碁普及の会へどうぞ。

日時 毎週土曜日午前9時～12時  
場所 大和田市民センター 講師 池田正三六段  
参加者 囲碁を学びたい市民 参加費  
年間3,000円  
連絡先 池田正三 nqd47851@nifty.com  
090-3598-9025